

「復興」とは何か

ゆりあげ

関上が見つめた震災14年の軌跡

東日本大震災の津波により、人口約5,000人の町・宮城県名取市関上では、750人もの尊い命が失われました。奇跡的に生還した長沼俊幸さんは、行政の掲げる「復興」に疑問を抱きつつ、町内会長として新しいまちづくりに奮闘しています。震災から14年——果たして「復興」とは何を意味するのか。東北の被災地を継続的に取材してきたローカルジャーナリストとの対談を通じて、その問いを紐解いていきます。

登壇者

長沼 俊幸 氏

(宮城県名取市 関上中央町内会長)

生まれも育ちも関上。震災時は家ごと津波に流され、屋根の上で妻・美雪さんと一晩を過ごし九死に一生を得た。震災から約6年は仮設住宅に。2017年、関上に自宅を再建し地域のコミュニティを作っている。



寺島 英弥 氏

(ローカルジャーナリスト

・尚絅学院大学客員教授)

福島県相馬市生まれ。河北新報社編集委員時代の2011年以来、東日本大震災、福島第一原発事故の被災地を歩き、当事者たちの声を伝えている。

2025
7.26 土

10:00~11:30 (受付9:45~)

浜松市防災学習センター 3F講座室

対象

どなたでも

お申込み

締切: 2025年 7月18日(金)



参加費

無料



ホーム
ページで

右記のコードよりお申込みください。

※締切後、ご案内をメールにてお送りします。フォームに記載のアドレスが受信できるように、設定をお願いいたします。

定員

会場受講40名

※応募多数の場合は、抽選



往復
ハガキで

以下の必要事項をご記入の上当センターまでご郵送ください。
(宛先: 〒430-0941浜松市中央区山下町192番地)

①講座名 ②氏名 ③年代 ④性別 ⑤郵便番号 ⑥住所 ⑦電話番号

